

■ 曲がりくねった道を行く ■

自分たちが創りあげてきたものでみんながハッピーになれるなら、こんなに素晴らしいことはない。先週の金曜夜の吹奏楽部のオータムコンサートは楽しいひとときだった。当日の昼休みに、校長室に部員が来て招待を受けたのだが、実は既に教室に掲示してあるポスター見かけていて、出かけようと思っていた。

1部は校歌で始まり、4曲が奏でられた。中でも、『El Camino Real』が気に入った。

タイトルは「王の道」という意味とパンフレットにあった。スペインのホタという熱狂的な舞曲から始まり、中間部は美しい



メロディーと大きな高まり、そして舞曲が再現され華々しいエンディングを迎える。

コンサートには、2つの地元中学校の吹奏楽部が友情出演してくれた。70人を超えるパフォーマンスは圧巻の迫力だけでなく、ひとつの地域に集うもの同士、年代を超えてどこかほのぼのと温かい。

続く2部は、カラフルなTシャツに着替え、魔法使いが次々と希望を叶えるドラマ仕立てだった。



曲目も演出も全て生徒たちが企画したという。ストーリーを練り、配役を決め、台詞を考える。自分たちでステージを創りあげる楽しさが伝わってきた。心地よく聴いていたら、♪君を忘れない曲がりくねった道を行く♪『チェリー』の全員合唱が胸に沁みてきた。そして、はっとした。

ここに至るまでにどれだけの曲折を経たのだろう。

私たちが見なければならぬのは、舞台の華やかさの陰にある、うまくいかなくても前進を試みた平凡な毎日の積み重ねだと気づかされた。

吹奏楽部はこれから、2月の「シンフォニックジャズ&ポップスコンテスト」の全国大会の練習へと舵を切る。個人の鍛錬から合奏まで、限られた時間にどれだけの思いが込められるか。連続の金賞受賞のためには、求める音楽への妥協を許さない精神が問われるだろう。真っ直ぐでも平坦でもない、まさに曲がりくねった道を行くことになる。それらの日々こそがいとおしい。